

## 「トラブルの解決はスピードが重要」

教頭

職員には、子ども同士のトラブルが起こった際に、子どもがすぐに担任に話ができるように日頃から子どもの話をよく聞いて関係づくりに努めるように話をしています。また、トラブルが発覚した時点ですぐに管理職に報告し、できるだけ早くトラブルが解決できるような体制づくりに努めています。トラブルが起こった際には、早期対応・早期解決が重要だからです。

お子さんが家に帰って「嫌なことがあった」とか「〇〇で困っている」といった話をしたとき、どうしていますか。「1回だけかもしれないからまだ大丈夫」とか「学校に連絡をして状況がさらに悪くなると困るから黙っていよう」等の理由で学校に連絡をせずに様子を見ようとしたことはありませんか。

様子を見ているだけで状況がよくなることはほとんどありません。意地悪をされた子どもはよく覚えていますが、意地悪をした子どもは意外と詳しく覚えていないことが多いです。中には、意地悪をしているという意識もない場合があります。そのため、様子を見て何もしないと繰り返します。意地悪を繰り返しても、その行為がよくないということを教えなければ、意地悪な行為がその子どもにとって意地悪ではなくなります。誤った学びをすることになるのです。

様子を見ていた結果、対応が遅れることも問題です。意地悪をされた子どもも意地悪をした子どもも、時間がたつと記憶が曖昧になります。すると、事実確認が適切にできなくなります。さらに、記憶が曖昧になるため意地悪をした子どもの反省も浅くなります。結果的に、指導の効果が下がり、再発の可能性も高まります。

学校に連絡をしたことによる仕返しを怖がる気持ちはよく分かります。状況が悪くなるくらいなら今の状況のままでよいと思う気持ちも分かります。しかし、何も対応しないということは何も改善されないということです。子ども同士のトラブルを学校に伝える際に、仕返しが怖かったら、その思いも伝えてください。学校は、仕返しが怖いという思いもふまえて対応を協議しますので、安心してご連絡ください。

7月の生活目標

## 時間を守ろう

いろいろな人たちが集まる場面で、みんなが幸せに過ごすためのルールがあります。時間を守ることもその一つです。時間が守れずに集合時刻や開始時刻に遅れると学級や学年等、周りの人の時間を奪うことになってしまいます。特に、「時計を見て、5分前に行動する」ことに重点を置いて意識付けを行っています。



現在は、時刻を意識して授業や清掃等の前に、早めに集合できる子どもたちが増えています。これからも時間を守ることを継続して指導していきます。

ご家庭でも、家庭学習の開始時刻や帰宅時刻、就寝時刻等を守れるように、声かけをしていただけたらと思います。よろしくお願いします。

# 自分の考えを『アウトプット』することについて

研究主任

新津第三小学校の教育目標「やさしく かしこく たくましく」の具現を目指して、重点目標を「主体的に学び、自分の考えを表現する」とし、職員が一丸となり子どもたちが学習を深められる授業の構築に向けて取り組んでいます。

学習内容や課題に対して、「自分の考えをもつ」ということが重要です。特に、「自分がその考えに至った根拠を示すこと」「(考えが間違っていたら)なぜ間違ったのか、理由を考えること」「自分の考えと他者の考えの相違点がどこにあるのかを考えること」が大切です。さらに、考えを自分の中で秘めておくのではなく、『アウトプット(=表出)』させ、他者と関わり合いながら学ぶことで考えが深まります。タブレット端末などのICTが導入されたことで、アウトプットの形態は、大きくその形を変えました。ICT機器の通信機能を使って自分の考えを発信したり、友達の考えを知ったりすることなどは、令和の子どもならではの学習方法と言えるでしょう。三小では考えを『アウトプット』することについて、子どもたちが何につまずいているのかを考え、支援策を立てることで、一人ひとりがよりよく学ぶことを目指しています。



また上記の他に、以下の3点を今年度も継続して取り組んでいます。

## 1 学習の約束の定着・学習用具の準備

Iプロジェクト(第一中学校区の小中3校での合同事業)に則り、「学習の約束」(最低限の学習規律4項目)を掲げ、学校全体で取り組んでいます。

## 2 校内研修による教師の授業力向上

前述した子どもたちが自分の考えを『アウトプット』することを目指し、学年内で教師が互いの授業を見合って、改善を図るなど、全職員がチームとなって授業力向上に取り組めます。

## 3 家庭学習の重視

家庭学習は、学習習慣や学習内容を身に付けるためにとっても大切です。

# 自律性と社会性を育むために ～生活部の取組～

生活指導主任

新津第三小学校では、自立を促す生活指導の推進に向け、次のような取組をすすめています。

## ①子どもに寄り添う支援

子どもたちの日常生活に目を配り、表情や言葉遣い、服装、持ち物などから、小さなサインを見逃さないように心掛けています。また、年に3回「自分のことアンケート」を実施し、子どもたちの困っていることを把握したり、教育相談で子どもたちの声に耳を傾ける機会を設けたりして、児童理解に努めています。これらの取組によって見えてきた個々の実態をもとに、一人一人に寄り添った支援を行っています。

## ②学級力の育成

安心できる学級、互いに高め合う学級を目指し、学級力(自分たちでよりよい学級を作り出す力)の育成に努めます。そのため、「わたしたちの学級アンケート」を実施し、その結果から、よりよい学級にするための手立てを学級のみんなで考え、実践していきます。今年度も第1回目を5月に実施しました。計画的に学級の実態を見直し、話し合う機会を設けることで、支持的な学級をつくっていきます。



## ③縦割り班活動の充実

縦割り班活動は、上学年にとっては下学年をまとめたりお世話をしたりすること、下学年にとっては上学年をお手本とすることにより、互いに相乗効果が生まれるととても有意義な活動です。縦割り班活動では、1～6年生までの全学年が入るように編成した縦割り班で、日々の清掃活動を行います。また、高学年がリーダーシップをとり、声を掛け合いながら協力したり、縦割り班での遊び活動を行ったりします。